◎ 3 学 年

学級担任	機械工学科	吉川 貴士
	電気工学科	大村 泰
	電子制御工学科	山田 正史
	生物応用化学科	間淵 通昭
	材料工学科	高橋 知司

1． 基本方針

第３学年が高専生活の中期にあたることをふまえて、専門知識を学ぶ上で、将来への具体的な目標をもてるよう、指導していく。とりわけ、本年度の学校の方針に従い生活指導に重点を置いて、学科間で統一性のとれた指導を行う。

2． 平成16年度実施計画

以下の学年共通の目標を定めて指導を実施する。

2.1. 朝のショートホームルーム(SHR)の実施。8:30登校を呼びかけ、出席を取る。担任と学生間の連絡や問題点の早期把握を行うとともに、遅刻・欠課数を減らし、朝からしっかりと授業に向かう姿勢を育てることを目的とする。

全学科が毎日行った。3Eの課外学習を除いては特に強制という形ではなく実施した。各学科によってばらつきはあるが、二学期半ばまでは半数程度の学生が8時30分以前に登校していた。しかし、寒くなり学年終わりに近づくにつれ、登校してくる学生、遅れる学生も決まってきた。一定の成果はあったが十分とは言い難く、同時に欠課数の削減に直接効果が出たかは判別しにくい。次年度にむけては、1年を通じて行うものであるので、上記目的達成のためには、意義と実施方法を十分検討した上で学年・学校で統一感を持たせて行うことが必要であると思われる。
3M：適性検査(2～5分）を配り、一斉にやるようにした。担任の1時限目の授業担当が週3日あったため、10分を有効に活用することが困難であった。次年度は副担任制度を利用すれば解消されるだろう。
3C：教室の清掃状態の点検・指導や担任・学生間の連絡、注意、報告、意見提出の場として意義が十分にあった。
3D：年間通して出欠を取ったが、時間通りに来る学生は大体きまっていて、3割程度であった。学生への連絡や清掃状況のチェックなどには良いが、現状の出席率では、クラス全員への連絡はできなかった。毎日のショートホームの日課を決めておくべきであったと思う。
3Z：挨拶運動も並行して行った。年が明けてからは他学科の学生からも挨拶があり、効果あったと言える。
3E：昨年度に引き続き8:10登校を奨励し，朝の課外演習を実施した。年度当初に家庭連絡を行い，協力を要請した。

2.2. 教室をはじめ、環境の美化につとめる。特別活動の時間を利用し、全学科連携して、校内環境美化活動を行う。

全学科が連携して、特別活動の時間を利用し、複数学科で共同での学校内外の清掃活動を行った。実施方法や時期などには改善すべき余地があったものの、学年全体で取り組んだということで、一定の成果はあったといえる。HR美化については、各学科とも年度初期から指導にし

っかりと取り組んだため、概ね例年より改善された観がある。ただ、後半になり分別が不徹底である、試験前・試験中のHR清掃が不十分である、などのケースも出てきた。3Eでは、日誌に日直の業務チェックシートをつけ日々教室の美化に注意し、年間を通してきれいな教室であった。

2.3. 学外研修について、有効な研修にするために、目的を明確にし、実施方法などを検討した上で実施する。

担任連絡会でも議論されたが、各学科に実施方法や日時は委ねられている一方で、授業時数確保のために実施日を調整する必要があり、特に今年のように災害による休講等、行事予定の変更によって大きく影響を受け、担任がその調整に苦労するといった状況につながっている。学校行事として日程に組み込む、学校として統一された実施方針を年度始めに出す等の措置を望みたい。クラスとしての一体感をはぐくむためには、4―5月ころの初期が望ましい。
3M：工場見学を実施。事前にパンフレットをもらい、質問事項を提出し、当日に回答に絡んでの見学説明を受けることができ、学生も問題意識を持って見学できた。
3E： 10月の終りに来島海峡大橋を徒歩で渡りに行った。クラスに出来ていたグループ間のコミュニケーションがうまくいくようになった。反省点は，春に実施するべきであると感じた。
3D：年度当初のアンケートで工場見学の希望者が多かったことを受け、7月に松下寿（西条）とNHK（松山）の見学を行った。学生の負担については、貸し切りバスの費用を学科で負担することで昼食代のみに抑えることが出来た。また、見学後の学生アンケート、見学先担当者のアンケートともに評判は良く、有意義な研修であったと思う。
3C、3Z：積極的に参加したいという学生が少なく、教室会議にて議論され、本年度は実施しないと決定された。

2.4. 担任会を結成し、指導体制の統一化や情報交換を行う。年間数回以上の連絡会の実施および、各学科での行事実施状況、学習・生活指導状況、問題点などを電子メールにて情報交換し、議論の場とする。

連絡会の回数は4月、5月、10月と少なかったが、懇談時間は長く、非常に有意義な情報交換の場となった。メールによる情報交換も有用であった。連絡会で話し合いの上新規に実施されたことは以下の2つである。
・保護者懇談会前に連携をとり、学年共通の形で保護者へのアンケートを実施した。懇談でよかった点、今後懇談で必要な情報をまとめることができ、以降の指導や2月の第2回懇談会でも活用することが出来た。
・9-10月における大雨・台風災害における学生の被害と対応・ボランティアの実施状況について情報交換、その際に3Mで実施した募金活動をもとに、他学科もクラス単位で義援金募金活動を実施、新居浜市に寄付を行った。

2.5. 学生や家庭との懇談を行うなど、成績不振者、進路変更者について早期から対応し、指導を行う。

進路変更者については本人・保護者とも再度に渡り、懇談し進路を確定していった。3Mでは朝が苦手な欠課時数の多い学生とは保護者と連携し、改善策を決め、2名は欠課オーバーを免れた。3Cでは年度始めに学生全員と担任での個人面談を実施し、把握に努めた。このとき個人の

方向転換希望者が10名程度いたこともあり、4月から三者面談を実施し、進路への取り組み学校生活の両立のために意識付けしていき、7月、11-12月、年明けと数多くの面談により家庭と連携しながら指導を行った。同時に目標を失いつつある者とも繰り返し面談し、学校に残って努力する意識付けも行った（4年制大学3名、短大2名、専門学校5名、就職2名「）。また、4月より旧担任、家庭とも協力し注意していたにもかかわらず心因性の不登校学生が2名出て、結果的に留年に至ってしまった。これに対しては学科、学生相談室、医師、家庭とも連携して対応した。3Zでは1名の成績不振学生について、アルバイトを行っていることが判明し、面談および再三にわたり家庭連絡により、勉学努力の激励を行った。

2.6. 盗難防止対策として、教室の整理整頓につとめ、個々人の持ち物・貴重品の管理をきちんと行うよう指導する。

各担任がSHR、特別活動などの時間を利用し注意・指導を行った。3Mでは4月当初の特活の時間に、学生一人ひとりに「盗難防止案」を考えさせ、クラスでの取り組みを決めた。残念ながら、意識の薄れた後期になって2件発生し、改めて注意を促した。3Cでも後期になり1件事件が発生した折、全員にこの問題について考えさせる機会を持ち、未然に防ぐための意識向上を促した。

○ 総括的な評価と課題

本年度は、第３学年が高専生活の中期にあたることをふまえて、専門知識を学ぶ上で、将来への具体的な目標をもてるよう、数々の機会を利用して行ってきた。連絡・連携により、学科間である程度統一性のとれた指導となり、個々の担任も指導等の活動がやりやすかったと考えている。

しかしながら、高専生活を続けるべきか迷いをもつ者、方向転換による退学者が出てくるのもこの学年の特徴であり、自分自身をしっかり見つめ、考えること、責任感を持って行動することに対する指導がより必要になる。その一方で同時にマナーや躾ということの生活指導についてもかなり初期的なレベルからの指導が必要であり、この両面で3年担任の負担は少なくなかった。初期的なレベルの指導については1，2学年のうちにしっかり身につけるようなシステムが強く望まれる。また、担任の負担という点では、副担任制度である程度この問題は解消されることが期待されるが、それぞれの役割をより明確にすること、学校、学年、学科の単位での統一性はもちろん、担任副担任間ではより厳密に一貫性をもたせた学級運営が求められる。